

学都屋台食談

第8回 キリンビール株式会社 北陸支社長 小西敏雄氏

金沢で過ごす学生生活の意義や仕事観・人生観を、講師と学生が語り合う「学都屋台食談」を11月15日から11月25日にかけて、金沢市の片町中央味食街で開催しました。2006年から今年で14年目を迎えた食談で、講師の方々が語ったメッセージを紹介します。

よろこびがつなぐ世界へ

KIRIN

個人の目標を立てることで時間の使い方が変わっていく

皆さんは、いつか社会に出る日が来ます。会社に入る人は、しばらく先輩の指示に従って仕事をすることになるでしょう。ただ、いつまでも先輩の指示を待っているわけにはいきませんので、自分で仕事を組み立てられるよう、シフトしなければなりません。そこで大切なのは、個人の目標を立てることです。目標ができれば、達成するため何をすべきなのかを逆算して考えます。そして、プライベートな時間の使い方も工夫するようになるでしょう。1日単位でしか時間を考えない人と、中長期的な視点で時間を使っている人では、長い目でみると大きな差が生じます。

私も以前は中長期的な視点に欠けていました。そんなスタイルを変えたのは、仕事での失敗です。例えば、スケジュール管理の甘さから納品が遅れ、取引先のお客さまにご迷惑をかけたことがあります。このような失敗をしたのは、目の前のことしか見えていなかったからです。時間は全ての人に平等です。社会に出る前に使い方を身につけておいてください。

情報をインプットしていけばより高いレベルの仕事が可能

時間とともに大切なのは、自分で学ぶ姿勢です。入社後、営業部門に配属された私は、10年後に大手クライアントを担当する部署に異動となりました。同じ世代の社員が一堂に集められ、毎日が優秀なライバルとの競争でした。余裕がなかった私でしたが、ライバルにも負けたくはありません。そこで取り組んだのが、新聞や外食関連の専門誌、経済学の本などを読んで世界経済をインプットすることです。さらに、その情報をもとに外食産業に対して何を提案すべきかを考えたのです。

情報をインプットすると、自分の仕事と外食産業と世界経済がリンクしていきまします。そうすると、会話の内容の質が変わっていきましますので、よりレベルの高い提案と仕事をすることが可能になります。

自分で学んで人生をギアチェンジ



参加生

前列左から、栗山華奈さん(石川県立大学2年)、朝倉毅さん(金沢美術工芸大学3年)、後列左から、古川雄基さん(金沢大学1年)、出口香菜子さん(金沢星稜大学3年)、井熊郁佳さん(金沢工業大学3年)
※参加学生はすべて20歳以上です。

企画/榎アドマック 編集/榎都市環境マネジメント研究所

この配置転換が、自分が成長するギアチェンジのきっかけでした。35歳だった私は、客観的に立ち位置を判断し、学ぶことが必要だったのです。今、若手の社員には「35歳最強説」を主張しています。この年齢は、気力、知力、体力が充実し、世の中や会社のことがかかっているからです。「知る」という意欲が人生の幅を広げる一歩となります。

インターネットが発達しても顔と顔を合わせることは大切

ところで、現代社会は、いつでもどこでもSNSでコミュニケーションが図れます。私自身、年齢を重ねるごとに、大学時代に出会った仲間とは連絡が取りづらくなっています。このような通信手段が発達したのは、現代社会の必然だったのかもしれない。しかし、人間関係は希薄になっているように感じます。人間同士の付き合い方が「フェイストゥフェイス」から、「画面トゥ画面」に変化する中、人と人が目を合わせて会話する機会が減っているのではないのでしょうか。

実は、互いに目を見て話すことで、相手に対する好意や思いが自然と伝わるとともに、聞く人の話を聞く意欲も高まります。つまり、目を見て話すことは、強い絆を結ぶ上で重要な役割を果たします。

絆が強いとSNSでのつながりも強くなります。現実の世界の絆が、そのままインターネットの世界に持ち込まれます。どれだけ世の中が便利になっても、顔と顔を突き合わせることは大切さは変わらないのです。



講師

キリンビール株式会社
北陸支社長

小西 敏雄氏

こにし・としお

1968年京都府京都市出身。京都産業大学経営学部卒業後、キリンビール株式会社に入社。首都圏統括本部、広域販売推進統括本部、キリンビールマーケティング株式会社フードビジネスサポートチームリーダーなどを経て、2018年10月から現職。



ストップ! 20歳未満飲酒・飲酒運転。お酒は楽しく適量で。妊娠中・授乳期の飲酒はやめましょう。あきびんはお取扱店へ。キリンビール株式会社